

諸家系譜

倍
小幡
小尾

庫文官政太			
三三五	三二六	三四九	和書門
册	架	函	號類

庫文閣内			
三三五	三二六	三四九	和書
函	册	架	號類

内閣文庫		
番號	和	32649
册數	225 (102)	
函號	156	23



共三百廿五册
共八十五

也
抄冊 平

系譜

未了百海
系譜

系氏
百系譜

山家位紙船新譜
小譜又二席

并修其軍陣... 陣... 兵... 神... 東... 進... 軍... 昔... 先... 本... 在... 手... 不... 強...

累... 軍... 兵... 神... 東... 進... 軍... 昔... 先... 本... 在... 手... 不... 強...

其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事

中言事その人其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事
 其の自の之を以て人々を其の計に示す事

西暦三三三... 神皇正統記...
 神皇正統記... 皇極經世一書...
 天長十年三月...
 皇極經世一書...
 皇極經世一書...
 皇極經世一書...

皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...

河内守人

皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...

右の頁の神皇正統記

皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...

皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...
 皇極經世一書... 皇極經世一書...

慶長 乙未年 松平

忠母 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

累松山内 松平

忠母 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

寛永 乙未年 松平 忠母

祥以... 子孫... 孝行... 孝行... 孝行...

孝行...

母方

利... 孝行...

母方

孝行... 孝行... 孝行...

母方

景利... 孝行...

母方

孝行... 孝行... 孝行...

孝行... 孝行... 孝行...

母方

孝行... 孝行...

孝行... 孝行... 孝行...

母方

孝行... 孝行... 孝行...

孝行... 孝行...

孝行... 孝行... 孝行...

母方

孝行... 孝行...

孝行... 孝行... 孝行...

母 加藤 氏

女 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏

母 氏

女 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏

母 氏

女 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏

母 氏

女 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏

母 氏

女 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏

母 氏

加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏
加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏
加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏
加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏
加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏

加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏

母 氏

女 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏

母 氏

女 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏

母 氏

女 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏 加藤 氏

茶臼子 号景康院 古書部 臣

景明 子 云云

母如安 子 女

三月二十三年 子 云云

三月二十三年 子 云云 又 云云 云云

右通 四 云云

子 云云 初 云云 本國 甲 云云 云云

三月二十三年 子 云云

小幡 又 云云



小幡 劫 云云 景 云云 云云 云云

小幡 劫 云云 景 云云 云云

小幡 又 云云

伏見沙場より海邊迄波地へ神宮と
園部大寺のし中侍使より別荘あり
晚大寺と云ふ事案之對面の地
之井今有る目録ありて其の
割し此事一併したる事あり
拙子之定より一事念三三薪之備
多し人、依法以て夜操し此條
を分りしなりと云ふ事あり
之を以て之を以て之を以て之を以て
能一新案一見記た事ありて其川程あり

と申思は者一氏及丹波一陸軍院
の中へ法華坊とて一系案出た人
多し案の精致ありて信念付りて
其の事ありて之を以て之を以て之を以て
海邊及明石寺ありて其の案ありて
信戸内系ありて其の案ありて
石門各系ありて其の案ありて
板ありありて其の案ありて
之を以て之を以て之を以て之を以て
御成とありて其の案ありて其の案あり

子細ハ古心共々年ヨリ七十年と
其年久々合子ヲ由東陣三年
希々合子之秀頼ヨリ外孫
申之下幼き活きれは流し事
神妙之趣也

所承とありハ信國自及切接
尚年と共々年ヨリ七十年と
其年久々合子ヲ由東陣三年
希々合子之秀頼ヨリ外孫
申之下幼き活きれは流し事
神妙之趣也

其年久々合子ヲ由東陣三年
希々合子之秀頼ヨリ外孫
申之下幼き活きれは流し事
神妙之趣也

石舟人といふものゝ
影上の辱辱先之字あり
伊加多早落神と云ふ
後より人といふは
治政様あり新編
千上より又中念
由之とていふ
此節内後の中
仕人長きあり
一と記す

大なる夜九毎に
内之と云ふ
乃其の事あり
内之と云ふ
相と云ふ
信と云ふ
伊加多早落神
後より人といふ
治政様あり
千上より又中
由之とていふ
此節内後の中
仕人長きあり
一と記す

今方申分候も 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り

依見ん 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り

即而申老所 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り
申上り申下り 申上り申下り 申上り申下り

ふふ平可とも別て予何れも
九月とてあま平日敵 備也と云
根計之と世と條也

之と條也と世と條也

中二と云は川原山と云は猿渡の
道之阿保所守難を云はるる
不厚く敵働道の中之守之勢
田橋トレハ石とてハ左と云は
働かん道とて中是は守難所守難

むむむ中二と云は川原山と云は猿渡の
道之阿保所守難を云はるる
不厚く敵働道の中之守之勢
田橋トレハ石とてハ左と云は
働かん道とて中是は守難所守難

何の中へ入るに次ぎ御意に任せて
修習の元中へ入るに次ぎ御意に任せて
此の事と云はれりしに任せて
後の方より方々へ 控帳ハ
ある月々々々々々々々々々々々
曾し是の事より九つ一掃絶と
明は他は之を以てし 亦云々々
控帳の事より云々々々々々々々
の事より云々々々々々々々々々
凡俗の事より云々々々々々々々

乃ち乃ち云々々々々々々々々々
持者云々々々々々々々々々々々
一々々々々々々々々々々々々々
何れ云々々々々々々々々々々々
也

御下御事云々々々々々々々々々
云々々々々々々々々々々々々々
云々々々々々々々々々々々々々
云々々々々々々々々々々々々々
云々々々々々々々々々々々々々
云々々々々々々々々々々々々々

才て新嘗中より早し方部
口及る可なり

家康國を治むるは其の才を以て

初めを以て

此の才を以て

一は其の才を以て

二は其の才を以て

三は其の才を以て

四は其の才を以て

五は其の才を以て

家康の才

家康の才は其の才を以て

一は其の才を以て

二は其の才を以て

三は其の才を以て

四は其の才を以て

五は其の才を以て

六は其の才を以て

七は其の才を以て

八は其の才を以て

いふ事切しむに抄をて
いふ事一様

家康一様八井信幸と願印前
多勢元之所抄所法に延延様
延人の所抄の多勢より勝利と
為すの事と云下し事ハ解書に
乃信信と云ふ
此の抄書は奥州人教
に人十の抄より即中可
同する事と云下し人教様

丁事りの也に事ハ解書に
焼く所の昔同切抄合様合
なり

即事ハ老新と云ふ事ハ合合様と云ふ
事ハ解書に

事ハ解書に

将軍ハ事ハ解書に事ハ解書に事ハ解書に
事ハ解書に事ハ解書に事ハ解書に
事ハ解書に事ハ解書に事ハ解書に
事ハ解書に事ハ解書に事ハ解書に
事ハ解書に事ハ解書に事ハ解書に

陸軍之執感ノ有ハ必ス
コトニシテ

其新ニ高シクシテ
多クモハシ

泉原

ニクノ以テ
神自ニ元カキテ
神方元ニシテ

神七ニシテ
神

泉原漢代元ノ國ニシテ

三ノ後ハ早割
依國ニシテ

尾休ナク
此ノ事ニシテ

斗ニシテ
有リ

斗ニシテ
斗ニシテ

斗ニシテ
斗ニシテ

將軍

云々、今我之文数

家康ハ之方ト云キテ海之邊ニ踏田爲ト

云々、今我之文数

云々、今我之文数

云々、今我之文数

家康ハ若使ニ候共ニ此ノ如クハ此ノ事

云々、今我之文数

云々、今我之文数

云々、今我之文数

家康集テ只別舟山ニテ人ノ下ノ渡

云々、川田ト云比ノ侍ノ事

云々、今我之文数

云々、今我之文数

云々、今我之文数

家康其ノ時ニ十二月廿九日ノ刻

云々、今我之文数

家康其ノ時ニ十二月廿九日ノ刻

云々、今我之文数

家康其ノ時ニ十二月廿九日ノ刻

云々、今我之文数

卷之四

家康終る志の芳し人殺す故に
いふ時大坂の何れ陣火の
所より八割高の山に志賀唐
守手身合ふるに陣火の
町より山に陣火の陣火の
中より九割高の山に

家康荒敷山遠道平山申越とて
部は又山中加賀籠る者も
と功なきに就て是れ也

新官中へ此元正とて
一の中し中十一高意中
一高年分別之形一
操下り方人殺す陣火の

家康八坂山平山へ至るに
山中部人殺すに
陣火を拉後偵らるる
はるる万高の山に
而して志賀城の明山に

く入敵より奇突す去程は
うたひ守りし中より味方共方々
息切敵はるる中より
捕へ洗地あり積久射るは
中し意皆成り同後去るは
亦終るは海陣三時許合戦
行ふは如何
家康は其の初めよりしりし事あり
りハ後去るは先攻の意あり
息切敵はるる中より味方共方々

未ハ火槍を以て其の
家康は其の初めよりしりし事あり
りハ後去るは先攻の意あり
息切敵はるる中より味方共方々
捕へ洗地あり積久射るは
中し意皆成り同後去るは
亦終るは海陣三時許合戦
行ふは如何
家康は其の初めよりしりし事あり
りハ後去るは先攻の意あり
息切敵はるる中より味方共方々

先不強在城內、弱十、二十、三十、
無年、為子、相、城、內、人、完
可、見、節、之、七、八、九、十、十一、十二、
可、強、弱、之、終、究、變、化、大
如、也、之、又、在、何、所、變、化、也、
弱、之、上、有、不、同、中、之、節、也、
各、道、之、各、報、以、之、節、也、
弱、利、之、利、之、強、利、之、利、也、
是、報、大、學、中、之、節、也、
弱、利、之、利、之、強、利、之、利、也、

弱

先不強在城內、弱十、二十、三十、
無年、為子、相、城、內、人、完
可、見、節、之、七、八、九、十、十一、十二、
可、強、弱、之、終、究、變、化、大
如、也、之、又、在、何、所、變、化、也、
弱、之、上、有、不、同、中、之、節、也、
各、道、之、各、報、以、之、節、也、
弱、利、之、利、之、強、利、之、利、也、
是、報、大、學、中、之、節、也、
弱、利、之、利、之、強、利、之、利、也、

ハ之別強ノ義士ノ國政ノ以之
レ作高鬼ノ時之あり給他人國
ノ口實ニ背ルニ當リ終ノ時ニ至
テ是ノ時ニ作何モ有之ニ事
ナク一後ニ夕ニ科ノ下ニ至
隠

宗康行ノノリカ長久ノ事ニ某
其ノ時向カ下ノ今我々
城登我我身ノ事ニ怒ル所ニ
情ノ畏ルノ事ニ下ノ事ニ及之

宗康ノ家ニ付人ノ氏道越ク
其ノ人モ之ヲ好ム所ニ被抑取

親父之教ヲ傳レ別強成ル
月有父ノ信ノ是之父ハ
別強也ニ事ナリ抑カ人
心ノ事ヲ傳レ人ノ事ヲ傳レ
將中ノ事ヲ傳レ人ノ事ヲ傳レ
抑強也ノ事ニ及ル所ニ及リ
細分ニ之ニ事ナリ及ル所ニ及リ

江戸の戦後

市不将軍ノ勝印と云ふ報効書

侍り共多勝

東之屋以結本ノ多物仕元大書以成侍
陣依和山流と云ふは侍
又甲列依去ノ家山結流本集
人流去居在ノ流一第流世以流
後列流河甲列と云ふ國ノ兵
兵士ヲ撰已大立部と云ふ流

乙切ノ志今生流元為有在侍
衆去之ノ三浦と云ふノ流本由
海老江居在ノ三浦と云ふ
本中流本流甲列と云ふノ侍
是中流本軍敗之勝有之
かたしノ侍と云ふ侍
後中流本流流侍流本
他中流本流と云ふ侍
后中流本流と云ふ侍
今ノ切と云ふ侍流侍

之野から其の山に金と銀の
向に夜に夜に封を其の
是の夜に金に封を其の
種、運送すべし切る事
礼を授けし事、其の
之の事、其の事、其の事
殺し敵を捕りて見せし
也、其の事、其の事、其の事
仲城を捕りて見せし事

之の殺し敵を捕りて見せし事
之の事、其の事、其の事
能く其の事、其の事、其の事
之の事、其の事、其の事
方、其の事、其の事、其の事
之の事、其の事、其の事、其の事
之の事、其の事、其の事、其の事

劫入見しハ申方多ハ志ハ全衰
次海ノ事トシテ憂々子ヲ世に
子ハ私志アリハ志探知し傳
終定平治部ト書白アリ申前
少シ母後丹波守平守。汝地
凡世各武方人平治ノ百萬人
ナリ。吾人ニテ人ノ腹ノ疾
地氣持病ノ故ハ是地ニテハ
東山見者ノ心ニテ有テハ
秋見定中ノ早ニテハ見再

大津山脈後府法由る有申衆地を少
後河ノ事トシテ申前ハハ

大津山脈後府法由る有申衆地を少
身成奈意申テハ此次ノ事
意。多奈ノ百申後此内申
後村ト云ル中ノ事ヲ行ハ
行。了後地ト云ル百後此
ト云ル見者抱久ト申テ合子
先子及此ト云ル事ト云ル
或後丹波ノ事ヲ及此ト云ル

老後以来多病也今年抱病
王乃とて東京急病中諸地
人より京ハ片断少少流
京急病ハ十右路一
一ありとて城と海ハ
六地航ヲ見之是ノ歌ノ
録傳方ノ虚名ヲ見斗
人致テ所ヲ以テ其ノ
其言堪歎ハ浪白多
家物見内納申ハハ

今更ニ京ハ十七日ノ年
由世ハ日祥示ト云ハ
夜多此病ヲ妙心寺
内ノ共ハ母屋ニ至京
内海井ニ至馬所ニ
り名モ此下石舟子

此ノ下云
京急病ハ十右路一
一ありとて城と海ハ
六地航ヲ見之是ノ歌ノ
録傳方ノ虚名ヲ見斗
人致テ所ヲ以テ其ノ
其言堪歎ハ浪白多
家物見内納申ハハ

此ノ下云
京急病ハ十右路一
一ありとて城と海ハ
六地航ヲ見之是ノ歌ノ
録傳方ノ虚名ヲ見斗
人致テ所ヲ以テ其ノ
其言堪歎ハ浪白多
家物見内納申ハハ

伊予守三浦氏に
引合多し其
上は中て江州
ありて戸内
山城ありて
持守のたゞ
世継あるが
るる入中
之を
ら

けしきを
心も
二百
ありて
之殿
たぬり
二三
悉く
中

左馬殿
は州守
か

江州ありて
之州見
り
又二
世継
心も
の
ありて
半
少

と
友

系
譜

島上角吉
連友海舟の事

友系氏
七角角七橋の事

大正
連友海舟の事
小幡
修四
物

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

免

正保

小幡隆物

先公之由子正保在江戶喜又小幡隆物
正保女子大幡言其處乃多江戶
千代正保乃一婦人如月子之
正保乃其子也
先公之由子正保在江戶喜又小幡隆物
正保女子大幡言其處乃多江戶
千代正保乃一婦人如月子之
正保乃其子也

美奈氏

小幡

先公由常陸守知事之男也先年
正保在江戶喜又小幡隆物
正保女子大幡言其處乃多江戶
千代正保乃一婦人如月子之
正保乃其子也

先公由常陸守知事之男也先年
正保在江戶喜又小幡隆物
正保女子大幡言其處乃多江戶
千代正保乃一婦人如月子之
正保乃其子也

小幡隆物

出役 九月内花菱
去歲冠洋之十世孫八因控以多尾高子
以向原高子知家次小孫吉也去冬後亂少知吉也
之年婦男
山備伊原高子

崇久

母妻 不知

四色之... 生之知

上川 又中家氏之位

天又二年三月庚午年十月十日 中家氏村了

建之... 中家氏

永保元年... 中家氏

中家氏

中家氏... 中家氏

泰清... 中家氏

母妻 不知

去水七年... 中家氏

中家氏

永保二年... 中家氏

中家氏... 中家氏

中家氏... 中家氏

中家氏... 中家氏

中家氏... 中家氏

中家氏... 中家氏

中家氏

中家氏... 中家氏

中家氏... 中家氏

中家氏... 中家氏

永保元年八月二十日 氏政の御書

右殿 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上

小幡源平

右殿 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上

小幡源平 大書 下
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上

小幡源平

右殿 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上
先般 貴方御書 承り申上

正保 年相 貴方御書
母妻 御書

天正五年子年 生身日
 中務氏重正に
 壬子十九卯子
 神恩より此の如く當座ありし入上り番
 兼世五子より居たりし所或州神倉村より及
 道一光
 定取ありしより子あり死あり
 兼日る所法後道一光と尋

正原 澤下

母 不詳
 妻 中務重正に 産す小倉町女
 壬子十九卯子
 天正五年子年
 台神子より澤下村
 兼世五子より 兼日る所法後道一光と尋

左邊及び陣 中務
 兼日る所法後道一光と尋
 兼日る所法後道一光と尋
 兼日る所法後道一光と尋
 兼日る所法後道一光と尋

上段より右側から内より
 兼日る所法後道一光と尋
 兼日る所法後道一光と尋
 兼日る所法後道一光と尋
 兼日る所法後道一光と尋
 兼日る所法後道一光と尋
 兼日る所法後道一光と尋
 兼日る所法後道一光と尋
 兼日る所法後道一光と尋

大御所下... 少備... 為... 五...
 少備... 正... 為... 五...
 上... 正... 為... 五...
 日... 正... 為... 五...
 高... 正... 為... 五...

為貞

母... 女...
 妻... 女...
 元... 女...
 高... 女...

高... 女...
 高... 女...
 高... 女...
 高... 女...
 高... 女...

正重

母... 女...
 妻... 女...
 高... 女...

明正二年の三月に...

元禄二年の三月に...

元禄五年の三月に...

元禄八年の三月に...

元禄十一年の三月に...

元禄十四年の三月に...

元禄十七年の三月に...

元禄二十年の三月に...

元禄二十三年の三月に...

明正二年の三月に...

元禄二年の三月に...

元禄五年の三月に...

元禄八年の三月に...

元禄十一年の三月に...

元禄十四年の三月に...

元禄十七年の三月に...

元禄二十年の三月に...

元禄二十三年の三月に...

元禄二十六年の三月に...

元禄二十九年の三月に...

元禄三十二年の三月に...

正親 万由 中

母 首

正忠 小幡 八

母 首

正房 中幡 八

母 首

正信 初 八

母 首

正隆 六 八

母 首

正盛 孝 八

母 首

大幡 初 八

中幡 八

母 首
正隆 六 八

政定 五 八

母 首

正盛

正房 孝 八

正信 初 八

母 首

正忠 小幡 八

正隆 六 八

正盛 孝 八

三子五子...
母の事...
母の事...

女
母の事

女
母の事

女
母の事

妻...
母の事...
母の事...
母の事...
母の事...

三子八子...
母の事...
母の事...

母の事...
母の事...

女
母の事

母の事...
母の事...

女
母の事

母の事...
母の事...

女 大若 水子文ノ子 高橋妻

母 若白

子 成 中子

高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻
過番高橋中子 成心ノ子 中子 成心ノ子 成心ノ子
成心ノ子 成心ノ子 成心ノ子 成心ノ子 成心ノ子
成心ノ子 成心ノ子 成心ノ子 成心ノ子 成心ノ子

正南 中子

母 田五氏女

妻 大若 水子文ノ子 高橋妻

母 相二五 中子

高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻
高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻
高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻

高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻
高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻
高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻
高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻
高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻
高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻
高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻
高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻

母 田五氏女

女 大若

母 若白

高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻

母 若白 高橋妻ノ子 大若 水子文ノ子 高橋妻

友方ノ子 高橋妻

某 清子 女

母小幡氏女

某令身大

母首

女

母首

此の節は中々妻とたに治りた方より

[Faint handwritten text, mostly illegible]

小幡原少為貞二男

正勝

母小幡氏女

妻之序

而此是乃の生年

四月二十日 十時中 乃の如る人志

正勝二名入 大幡中 由海光寺 池

正勝 初ノヤ 百ノヤ

此の節は中々妻とたに治りた方より
正勝二名入 大幡中 由海光寺 池
而此是乃の生年 四月二十日 十時中 乃の如る人志

妻 王后
海妻 日之妻
之母 王后之妻
之母 王后之妻

元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院

母 之 世 氏 女

母 妻

元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院
元禄二年 十一月十日 葬入 柩 於 西 之 院

五の年○十一の年○小幡年○正徳年○常春
甲斐守○長所○り○曲○甲斐守○
甲斐守○大幡年○
曲○甲斐守○
甲斐守○
甲斐守○

甲斐守○
甲斐守○
甲斐守○
甲斐守○
甲斐守○

女 小幡年八 正陽妻

母 母

正房 小幡年 正陽妻

正房

正房

妻

正房

正房

正房

正房

正房

正房

寛政六丁卯のハツケに於て入道心算の事ハ
寛政ハツケのナリキナリハツケ
寛政ハツケのナリキナリハツケ
日ハ二条ニ在リ

女 幸子 小幡監物正屋妻

母有

女 幸子 小幡監物正屋妻

母有

寛政十年年々々々ハツケ
寛政十年年々々々ハツケ
日ハ二条ニ在リ

女 幸子

母有

女 幸子

女

母 小幡氏女

女

母有

女

母有

存シテハハツケハツケ

言ハツケハツケハツケ
ハツケハツケハツケ
ハツケハツケハツケ

ハツケハツケハツケ

寛政六丁卯ハツケ 小幡監物

平

あまのり
うらまのり
西のり

あまのり
うらまのり
西のり

系譜

と
成
二
後

大正
小幡
十八

[Faint handwritten text and a small diagram on the right page]



夏系氏

小幡

夏系中国帝隆政幼帝之男也

三河小幡河原是其在心小幡也

之後小幡又小幡十打也

幕之紋 丸内根毎 丸内根毎

丸内根毎 丸内根毎

古御冠鎌之十五世孫八田権氏

少好多河原朝之男八田筋也

小幡之系也 之後小幡之系也

嫡男

六ヶ島百々子

正史

シケルヤ 陸名物歌

母 大番 藤原源氏末孫

妻 貞名臣 華名三尾沼

世系三子孫の事

三島 元祿六年の事

ク印本より

口口口口口口

口口口口口口

口口口口口口

世書教

字原元 甲の事

少好神の事

同之成成

同七

口口口口

口口口口

口口口口

口口口口

口口口口

上下各一ノ事ヲ為ルルニ由ルルニ由ルル

正陽

明中朝分 以八

母 華原三喜房

妻 大善 杉伊太直重

後妻 大善 杉伊太直重

後妻 大善 杉伊太直重

元禄十四年 杉伊太直重

元禄十四年 杉伊太直重

日下中ノ事ヲ為ルルニ由ルルニ由ルル

日下中ノ事ヲ為ルルニ由ルル

日下中ノ事ヲ為ルルニ由ルル

日下中ノ事ヲ為ルルニ由ルル

日下中ノ事ヲ為ルルニ由ルル

日下中ノ事ヲ為ルルニ由ルル

日下中ノ事ヲ為ルルニ由ルル

日下中ノ事ヲ為ルルニ由ルル

日下中ノ事ヲ為ルルニ由ルル

日下中ノ事ヲ為ルルニ由ルル

日下中ノ事ヲ為ルルニ由ルル

口口口口の子はこれに 城守の男は城
守の五男の子はこれに 年終る年八尋日
守中源氏の子はこれに

女子

母

女子

母

女子

母

正時

母

女子

母

女子

母

妻

後妻

息女

父は中八五郎源氏の子はこれに 年終る年八尋日
守中源氏の子はこれに 守中源氏の子はこれに

二台那也... 四和七... 日七夜... 安水三... 可夜三... 日七夜... 安水三... 可夜三... 日七夜... 安水三... 可夜三...

四和七... 日七夜... 安水三... 可夜三... 日七夜... 安水三... 可夜三... 日七夜... 安水三... 可夜三...

正史

如... 年... 第... 正史... 如... 年... 第... 正史...

妻 川原村 氏 出 氏 仲 氏 男

妻 甲 村 人 出 氏 仲 氏 男

妻 出 氏 仲 氏 男

妻 出 氏 仲 氏 男

妻 出 氏 仲 氏 男

妻 出 氏 仲 氏 男

妻 出 氏 仲 氏 男

妻 出 氏 仲 氏 男

妻 出 氏 仲 氏 男

妻 出 氏 仲 氏 男

女子 出 氏 仲 氏 男

母 出 氏 仲 氏 男

母 出 氏 仲 氏 男

母 出 氏 仲 氏 男

母 出 氏 仲 氏 男

妻 出 氏 仲 氏 男

母 出 氏 仲 氏 男

母 出 氏 仲 氏 男

女子 出 氏 仲 氏 男

三三三

東山

三月

小幡

四

三三三

三三三

三三三
三月
小幡

あし

三三三

あし

三三三

系譜

を

後

あし

三三三

小幡

後系姓

小幡氏

光祿中田原陸外知事 三易之

光重上州小幡住居是級在右

少幡在衣系之候小幡又小幡

少幡中一

幕之段

丸内根卷

家之段

軍比因内古之卷

誓之段

丸内根卷

大織冠孫是十六世孫八田後頭家
 經長子 家子 世子 孫義朝三男
 八田後家子 家三 代小幡 家子
 之 重信 亂小幡 家子 世子 久重信
 男 少幡 河原 家久 二代 少幡 家子
 在 少幡 正後 二代 少幡 家子 正氏
 三男 正氏 家子 少幡 家子 正氏
 家子 正氏 家子 正氏
 正氏 家子 正氏

申張子 家子 世子 家子
 家子 家子 家子 家子

妻 家子

元 和元 元年 月 日 家子 家子 家子

慶長 元年 月 日 家子

大 勘 院 保 康 州 帳 面 之 新 記 也

系 按 回 中 夜 家 子 所 記 家 子 家 子
 仲 家 子

兼 為 元 王 辰 年 十 月 日 中 切 米

出之

年号月日之類物之類之類

年号

寛文元年己未年三月十日

沖波菅文政式三石

思之

同

同

同

同

同

同

元禄二年己未年正月十日

同

同

文政元年甲申年

同

同

同

同

法号受仙院家誌日付

女子

母

法号受仙院家誌日付

中川道三市法号受仙院家誌日付

女子

母

法号受仙院家誌日付

中川道三市法号受仙院家誌日付

女子

母

同上

女子

母

同上

正旦元

始七之巫

武兵衛

母

同上

妻

法号受仙院家誌日付

湯川壽三妻良女

継妻同人養女

元禄六癸酉歳月日不知於武兵衛

江戸出生

宝永四丁亥年八月廿日父歿式

法号受仙院家誌日付

母 湯川喜町三子也

継母日人者也

妻 長谷川望村五子也

継妻 日人也

正徳四年辰年十一月朔、於屯居

以戸出生

享亨二乙丑年十二月廿二日父染

病歿、母中酒并惣家産

を継承、幸治地長谷川久三郎支記

天明二年六月十日、幸

徳一流、中目之、幸、幸、幸、幸

幸、幸、幸、幸、幸、幸、幸、幸

西九洲小幡地、幸、幸、幸、幸

幸、幸、幸、幸、幸、幸、幸、幸

松平長、幸、幸、幸、幸、幸、幸

幸、幸

天明十年辰年、四月朔、
後、長谷川中九郎、
所、得、種、也

也

懐徳院様 為 附

懐徳院様 甚死去付

同正年巳年八月五日申刻九時

山吹池水野山御吉世成同人記

一員同正年巳年十月五日於上

所處吉的 出雲守村山吉物

於 所前時後了り付仕

同正年十二月十日

孝恭院様 為 附 申の申書

宗田母氏御世成

あまの七代 成年五月五日 杉木

杉原吉世 長能高直朝色

少重清介 傳付大徳寺

支那に成石川吉世 吉世の長

寛政七年 卯年 甲子 大老 義

守列 海陸長 傳付

女子 少重様

申 同日會

寛政三十四年正月、京都府西宮市

大奥左衛門右衛門

宗子 己年七月十日

某

父原中

子也

母

〇〇

女子

母

子也

女子

〇〇

山内

宗子

母

〇〇

正福

始中

〇〇

母

家女

妻

田原一庵

明和九年

申年三月十日

新設の地、子孫高野村

方、右邊は

女子

母

子也

正温

〇〇

〇〇

〇〇

母長谷川

寛文九年八月八日 於武元
氏内也

安永元年八月廿五日 於
氏内也 於武元氏

女子

母

長谷川監物中三女

後府内也 氏内也 於武元氏
氏内也 氏内也 氏内也
氏内也 氏内也 氏内也

寛文十一年八月廿五日 於武元

女子

母

同日

乙元

古也

母

同日

明和三年八月廿五日 於武元
氏内也

安永八上 庚午八月廿七日 於武元

氏内也 氏内也 氏内也

天明八戊申 庚午八月廿七日 於武元
氏内也

正行

母

乃

明和八年卯年八月晦於

寅之辰元之

卯之辰元之

辰之辰元之

巳之辰元之

午之辰元之

正行

乃

養母 同上

實父行田法中 政容次男

實母 大進子海九

以和三年戌年正月十日於

出

實父及實母 壬午年三月廿五日

同和九年卯年正月十日於

同和九年卯年正月十日於

同和九年卯年正月十日於

同和九年卯年正月十日於

母 高直 武家高直月女

正直 高直

母 日之

女子 早世

母 日之

右ノ通御座候

高直百重像

高直上野
生也

居白鳥守
高直

小幡勇亮

寛政壬辰年五月

年三十三

正信

五

と

系譜

安房守
安房守

子氏
少子成備
○ 堀内
三舟入

安房守
安房守
小幡 孫 市 兵衛

虫通

以中助

母毒

毒及毒 之好毒力及毒力

毒の毒多し... 毒の毒多し... 毒の毒多し... 毒の毒多し... 毒の毒多し... 毒の毒多し... 毒の毒多し... 毒の毒多し... 毒の毒多し... 毒の毒多し...

三月

小幡孫市

平氏

小幡

先祖氏の時代... 先祖氏の時代... 先祖氏の時代... 先祖氏の時代... 先祖氏の時代... 先祖氏の時代... 先祖氏の時代... 先祖氏の時代... 先祖氏の時代... 先祖氏の時代...

善治

善治

善治

村... 村... 村... 村... 村... 村... 村... 村... 村... 村...

民... 民... 民... 民... 民... 民... 民... 民... 民... 民...

法... 法... 法... 法... 法... 法... 法... 法... 法... 法...

元祖氏... 元祖氏... 元祖氏... 元祖氏... 元祖氏... 元祖氏... 元祖氏... 元祖氏... 元祖氏... 元祖氏...

上野水部
 水鏡村九方五折之
 中云村五折之
 以云云云云
 以云云云云
 与持助之氏令了
 知り也
 是云云云云
 小幡孫市印之

中世世勤 九折之氏令了 英京之氏令了
 年月日不知 大幡孫市印之

大幡孫市印之勤之氏令了
 是云云云云
 是云云云云

三昌 三昌

母云云
 妻 三昌 志井三昌氏之妻也

是云云云云
 是云云云云
 是云云云云

三昌 三昌
 是云云云云

孝子

忠宏

母

兄小幡之孝子

某

母

三郎

母

三郎之孝子 三郎之弟 三郎之弟 三郎之弟 三郎之弟

忠宏

母

忠宏 小幡 孫市 忠宏之弟

忠宏

母

忠宏之弟 忠宏之弟 忠宏之弟 忠宏之弟 忠宏之弟

女

母

忠宏之弟 忠宏之弟 忠宏之弟 忠宏之弟 忠宏之弟

如天 母白
如天 母白

如天 母白
如天 母白

妻 大島 才川 弟乃 古鏡 女

妻 大島 才川 弟乃 古鏡 女

如天 母白 才川 弟乃 古鏡 女

如天 母白 才川 弟乃 古鏡 女

妻 大島 才川 弟乃 古鏡 女

妻 大島 才川 弟乃 古鏡 女

如天 母白 才川 弟乃 古鏡 女

妻 大島 才川 弟乃 古鏡 女

如天 母白 才川 弟乃 古鏡 女

妻 大島 才川 弟乃 古鏡 女

如天 母白 才川 弟乃 古鏡 女

妻 大島 才川 弟乃 古鏡 女

如天 母白 才川 弟乃 古鏡 女

寛政十二年己未二月 小幡孫市

年八


[Faint vertical text in columns, likely bleed-through from the reverse side]

系圖字

[Faint vertical text in columns, likely bleed-through from the reverse side]

伊豆屋
安波伊
小幡孫市

小幡氏系

村上天皇 尊子

具平親王

子 子孫

又子 六条子

相傳 文人

二系中務 後中務

師房

子 一位 北条房

曾子 房

中名 資定

按 康保 康平 康和 康長 康平 康和 康長

寛仁四年 十二月 物部 源氏

源房

子 一位 堀川 康長

康長

子 一位 康長 康平

雅定

子 三位 中務 康長

康長

子 三位 康長 康平

定忠

子 四位 上 康長

師房

子 三位 康長

秀房

秀利 康長

康長

則宗

康長

源範

子 四位 上 康長

之範

子 四位 上 康長

源範

別村 康長

氏房

子 四位 上 康長

宗房

子 四位 上 康長

宗房

子 四位 上 康長

師房

子 四位 上 康長

五房

子 四位 上 康長

憲房

子 四位 上 康長

方房

子 四位 上 康長

憲隆

子 四位 上 康長

憲房

子 四位 上 康長

京房

子 四位 上 康長

定房

子 四位 上 康長

京房

子 四位 上 康長

憲重

子 四位 上 康長

信重

子 四位 上 康長

源重 子 四位 上 康長

源重 子 四位 上 康長

小幡 源重 子

平

六指之五 無國

東千五百丁
上之五

系譜

沖小性
道原
小幡十次郎

平姓

小幡

村上天皇第七皇子具平親王之後胤上野國住人
小幡尾張守憲重ヨリ四代

旗之紋

拙竹團扇

此ハ又事ヲ爲スルニ由リテ
其ノ紋ヲ用ヒテ其ノ旗トシテ
用テ之ル也

幕之紋

竹虎

家之紋

拙竹團扇

其ノ紋
箆龍膽

重昌

三平在事

重厚

三平在事
後五位下

備中守

上總介

右者當時廣虎番安藤伊与守經陽孫市下亦前平氏

重世

終りぬ 下りたり

母 下りたり

赤井重世の日記

妻 下りたり

國八重重世の日記

嚴原

仲公の日記 三卷 辛卯年 八月 九月 十月 十一月 十二月

十二月 下りたり

十二月 下りたり

十二月 下りたり

十二月

十二月 下りたり

十二月 下りたり

憲高 市代の日記

貞享元年 八月 九月 十月 十一月 十二月

十二月 下りたり

直昌

十二月 下りたり

母

赤井重世の日記

十二月 下りたり

十二月 下りたり

十二月

直頼

母 下りたり

嘉 如志

江米九美某女

母の志を継ぐ事

延元元年五月一日

父の志を継ぐ事
母の志を継ぐ事
父の志を継ぐ事
母の志を継ぐ事

延元元年五月一日

父の志を継ぐ事
母の志を継ぐ事
父の志を継ぐ事
母の志を継ぐ事

延元元年五月一日

母の志を継ぐ事

延元元年五月一日

父の志を継ぐ事
母の志を継ぐ事

延元元年五月一日

父の志を継ぐ事
母の志を継ぐ事

延元元年五月一日

父の志を継ぐ事
母の志を継ぐ事

延元元年五月一日

父の志を継ぐ事
母の志を継ぐ事

日

延元元年五月一日

母の志を継ぐ事

庚寅年五月十五日
因縁之由

前六日... 申...

申... 申...

申... 申...

直武

申

申... 申...

女子

申

申...

女子

申

直武

申

申...

實父

實母

少後事七十一

妻

此後全無後女
此後全無後女
此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

政能

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

忠親

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

此後全無後女

勝興

此後全無後女

を平

あつりあつり
松本藩政司

平氏
百々信重○御用者前

之之

甲子年
少幡子

元
百何年々々々

女子

母 早稲田 久保田 市野 区 氏

右 女 子 之 名 氏 上 二 志 年 子 年 出 氏 氏

左 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏

少 稻 田 氏 氏 氏

少 稻 田 氏 氏 氏

平 權 少 權

村 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏

志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏

上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏

上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏

上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏

上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏

上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏

上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏

上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏

上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏 上 志 年 氏 氏

定ふ二五宮第月、家出津田山殿、
ア切来三石儀、幼中此處、
日三愛卯年、月、
天知元、年、

修和係、
日三、愛、亥、年、

修和係、
貞吉、
二、年、

並列

母

高

長

定中、
十、
更、
父、
日、
志、

正徳四年甲午年七月廿三日
 色澤長而得將奈乎
 重利之物 曰多日
 之氣以休去
 又為三丁巳年十月廿四日
 甲列山型部存年
 即亦乃之丁巳年於八月廿七日
 甲列莫是志村
 佛曰乃乃休去日覺

重利

母 丁巳年
 妻 甲午年
 子 乙未年

正徳四年甲午年七月廿三日
 父乃乃乙未年五月廿三日

正徳四年甲午年七月廿三日
 色澤長而得將奈乎
 重利之物 曰多日
 之氣以休去
 又為三丁巳年十月廿四日
 甲列山型部存年
 即亦乃之丁巳年於八月廿七日
 甲列莫是志村
 佛曰乃乃休去日覺

女子

母

正徳四年甲午年七月廿三日
 父乃乃乙未年五月廿三日

此書乃存古之說切實乃中書所錄也
 四知元世宗時有古之知每
 宜以三書廣多下百之知以月利於之
 中後
 月三書五年一月之古知也知每部不
 為之介也其子之知每部所名之古知不
 部內通之也中書所錄之古知也知每部
 曰古知子年古知也知每部所名之古知不
 曰古知子年古知也知每部所名之古知不
 曰古知子年古知也知每部所名之古知不
 曰古知子年古知也知每部所名之古知不
 曰古知子年古知也知每部所名之古知不

曰古知子年古知也知每部所名之古知不
 曰古知子年古知也知每部所名之古知不

直火

力部

母 力部

力部

其 力部

力部

信 力部

力部

生 力部

宜以三書廣多下百之知以月利於之
 中後

月三書五年一月之古知也知每部不
 為之介也其子之知每部所名之古知不

古

力部

力部

実父 日向守 出羽守 川打守

直惟

久幸印

母

高

台守

久保田守

有下五所守

高三百俵

久保元早子 辛未月

少保文市 五

戸田中勢 出

高百八番。出羽守

系譜

源

少保元早子 日向守 出羽守 川打守 久保田守 有下五所守 高三百俵 戸田中勢 出 高百八番。出羽守

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

小尾

本苗
武田

之經武田國防也貞冬甲斐守

少若也孫任仕小尾守代也

武田像在也小尾守代也

幕後

庵十日之原

幕後

日引

幕後

在也

孝直

孝直

母

母

妻

母

孝直月、少子母、母、母、母

大敵、後、様、清、代、年、号、月、日、父、少、直

大敵、之、友、弟、子、之、行、初、之、云

宣、和、九、年、申、年、正、月、日、年、三、十、三、日

死、年、三、十、三、日、葬、所、在、中、外、傳、一

死、年、三、十、三、日、葬、所、在、中、外、傳、一

法、名、長、源、院、淨、海、院

如子

如子

傳、世、子、之、也、成、妻

母

母

正直

正直

正直

母

母

傳、世、子、之、也、成、妻

妻

母

孝直月、少子母、母、母、母

大敵、後、様、清、代

宣、和、九、年、申、年、正、月、日、父、少、直

夫乃之...
 而...
 直易...
 直易...
 直易...
 直易...
 直易...
 直易...
 直易...

直易

某

母

半十郎
早世

屋代越中守勝永女

女子

母

節子

土屋兵衛尉右兵衛尉

女子

母

節子

由井五郎右兵衛尉

日川

直易

印右衛門

春母

平兵衛

実父

小尾左兵衛右兵衛尉

實母

毒

節之屋代也母也
信橋百為也

嚴

年号月日不知也
之屋代也
之屋代也
之屋代也

多矣
所
村
之屋代也

如行也

自
死
法

直利

母

妻

年号月日不知也
之屋代也

母

女子

和名

佐藤内藏助次女

母

和名

春日乃乃守清名正妻

女子

母

和名

文昭院様御代幸号月不知

所和凡大奥

石田公和

不知

定永七庚寅年八月不知死

和名

佐武

和名

官用

和名

養母 和名

実父

山屋中兵衛直島屋男

妻

和名

河舟理右衛門孫女

年号月日不知或花子生

常憲院様御代幸号元禄中幸号十月

春久実云足小尾中兵衛直利

端武より系山屋信直屋孫河津子生

安成同丁亥年十一月十二日
高 作年
止 作年
保 作年
高 作年
元文三戌年十一月十二日
山 作年
同 作年

高由部中三四号村
元文三戌年十一月十二日
山 作年
同 作年

侯明
母
妻
作册理左之孫女
日名

辛酉年九月 不表 卯花 三 卯花

懷後院標席外之字云 卯辰年二月廿

天不尾 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

宣曆壬申年九月 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

卯辰年 卯辰年 卯辰年 卯辰年

安永三年午年三月廿七日
此後能為氣小業信乃
四年八月五日別色江
堀田之御子此乃御
同日去乃乃病乃乃
身於系同里未日市一
水并信物乃此乃
江乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃

此松島守新

法名大英院使相柳心

法房

母

伊丹理房乃乃乃

本年三月乃乃乃乃乃乃乃

此乃乃乃乃乃乃乃

武秀

母

本年三月乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

仲武

初四日

六日

母 弟

享保三年卯子月十日
戸田とては他とては
高子とては

某

初七日

中

母 古

兄山内とては
是唐十唐とては

正長

初七日

又

母

古

延享四年卯子月十日
高子とては
高子とては

信親

母

弟

妻

享保三年卯子月十日

高子とては

大妻とては
正月廿四日

後妻 柳原氏之姉大氏女

其妻 氏名不明 壬辰年十月一日

後妻 柳原氏之姉大氏女

其保 二年二月十日 壬辰年十月一日

治政院 柳原氏之姉大氏女
父少 有 氏名不明 壬辰年十月一日
其保 二年二月十日 壬辰年十月一日

水舟 監物 壬辰年十月一日

安永 六年 丁酉年十月一日

其保 二年二月十日 壬辰年十月一日

其保 二年二月十日 壬辰年十月一日

其保 二年二月十日 壬辰年十月一日

其保 二年二月十日 壬辰年十月一日

其保 二年二月十日 壬辰年十月一日

其保 二年二月十日 壬辰年十月一日

其保 二年二月十日 壬辰年十月一日

其保 二年二月十日 壬辰年十月一日

右母及父少角五中一任親家
存氣磨六而子中一古伊親
孫行之後 言月之及用一人
云月口甲厚之古有古之死

高母 柳原年三仲右氏女

大高母西和九五厚之十十七
死

姓母 杉原十十庸女

妻 坂部中城子廣吉高女

與磨口甲成子三子中一或死之
先生法

海月院棟津代

安永八日言子中一和申中里
中司厚妻才的
上男之對子中 行付棟首

右母法
云月之三言子中一和申父少角
中一十中法親後府其皆中

之長初卷尾之評

沖田見之 行月

同記甲尾之評 行月 乙尾 乙卷 乙卷

乙免村之評 行月 乙尾 乙卷 乙卷

由沖代父山卷中 乙尾 乙卷 乙卷

備中卷京乙尾 乙卷 乙卷

乙尾 乙卷 乙卷 乙卷 乙卷

乙尾 乙卷 乙卷 乙卷 乙卷

沖田見之 乙尾 乙卷 乙卷

乙尾 乙卷 乙卷 乙卷 乙卷

乙尾 乙卷 乙卷 乙卷 乙卷

乙尾 乙卷 乙卷 乙卷 乙卷

乙尾 乙卷 乙卷 乙卷 乙卷

乙尾 乙卷 乙卷 乙卷 乙卷

乙尾 乙卷 乙卷 乙卷 乙卷

乙尾 乙卷 乙卷 乙卷 乙卷

乙尾 乙卷 乙卷 乙卷 乙卷

乙尾 乙卷 乙卷 乙卷 乙卷

寛政十一年五月十二日

小尾左兵衛

啓

本意
永井右衛門

法和原氏
百平八番 坊田左衛門

系譜

と

山口左衛門
永井右衛門
小尾左兵衛

氏

源氏

源氏

源氏
小尾

法和天皇後胤勅孫之御孫也
苗裔甲斐守源人由因用侍与
冬孫

幕之收

廣之内在夏

亦之收

是

昔之收

本寺之内在夏
亦之内在夏

少尾之内在補去親五代

也
是易

女子

御前

美法幼控之物余之妻

母

御前

法橋内御惣法橋女

女子

御前

去日在東海村妻

母

御前

十中島

忠利

御前

母

御前

法成

御前

善月

善月

母

御前

法成兄忠利高子御前

南村少善信住戸田中務高北少庵在
御前

忠房

御前

母

御前

妻

御前

文昭院極沖代

高永七唐高子
高子御前
高子御前
高子御前
高子御前
高子御前
高子御前
高子御前

此は元正天皇の御孫
 同の御孫に存す
 幸保望と云ふは
 御孫の御孫に存す
 法名も元正天皇の御孫

母 之如

文昭院様御代子之如

御中丸吉樂下は
 高永七原高下は
 高永七原高下は

法房

少少 寺也 十中

高母 高永七原高下は

高父 高永七原高下は

高母 高永七原高下は

高妻 高永七原高下は

高永七原高下は

高永七原高下は

高永七原高下は

女子

子世

母

海老島子世科
丸山昌久子世科

女子

母

右月

此子世後當為我伊知子世者先世
位加將少者子世法親下城子世
子世孫子世
言内今殿用人戸田子世在島出賢
妻子世

某

子世

子世

母

子世

幸子世

出子世

法一

嫡女

平島子世科
丸山昌久子世科

妾母

子世

妻

小善法世孫子世科
平島子世科
平島子世科
平島子世科
平島子世科
平島子世科

妾妻

山茂新子世科
氏法女

此子二子世子二月子世子世

右子世

此子二子世子二月子世子世
此子二子世子二月子世子世
此子二子世子二月子世子世

三ノ音源 東中甲斐 生中興元 新修版 三音所

免致上之書

小庵在三年

五

辛酉

本士了了六の
色候まぬきふか

系簿

注和源氏 □
上名八十九番〇堀田をある

と
源

小庵杉五郎

源姓

小尾氏

先祖用功武成國信長任佐治谷城守子孫也
小尾氏移居最用功武成國甲州也
後裔或曰氏源氏也
至平年壬午年大和谷城守

藤原氏

藤原氏 本尾内氏

藤原氏 本尾内氏

藤原氏 本尾内氏

月乃云云

源氏

源氏 本尾内氏

妻 小倉用房より

監物治之丞如甲抄或同治云云

川中島合戦の事又為りて下りて是甲角
より治之丞に

永享三年に足利公親(利隆)に
元和之丞申す事

五十年の事又用房より治之丞に
神君より治之丞に

神君より治之丞に

治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

神君上意より

右神判物より治之丞に申す事

神君甲抄治之丞より治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

治之丞に申す事

甲抄治之丞に五
拾八書又根拠之
費七百文治之丞

吾等又為處分
之法及免其
申於村山等
費又三層之
費又沙多之
費又以此新
三層
大町森村
乃其邊以
接於
接於

壬子年
九月廿七

安藤新の
山中第力

少産

其後九月廿七日、境内、其下、川村、中、山、
中、山、川、村、中、山、川、村、中、山、川、村、
監、知、事、之、所、中、山、川、村、中、山、川、村、

二七

一、西、之、人、中、山、川、村、
沙、友、河、方、中、山、川、村、
中、山、川、村、

一 鎌倉の男女老若
 一切之者なり
 一 鎌倉の老若男女老若
 一切之者なり
 一 鎌倉の老若男女老若
 一切之者なり
 一 鎌倉の老若男女老若
 一切之者なり
 一 鎌倉の老若男女老若
 一切之者なり

沖野御言

鎌倉十景の御言
 一 鎌倉の老若男女老若
 一切之者なり
 一 鎌倉の老若男女老若
 一切之者なり
 一 鎌倉の老若男女老若
 一切之者なり
 一 鎌倉の老若男女老若
 一切之者なり
 一 鎌倉の老若男女老若
 一切之者なり

右沖野御言の御言

得城より後出雲藩井手守兵衛 其子丸尾守右衛門

三原十二郎の妻 其子丸尾守右衛門

三原十四郎の妻 其子丸尾守右衛門

三原十六郎の妻 其子丸尾守右衛門

母首 丸尾守右衛門の妻 其子丸尾守右衛門

如女 母首

輔明 其子丸尾守右衛門

其子丸尾守右衛門

其子丸尾守右衛門 根城守右衛門

其子丸尾守右衛門 其子丸尾守右衛門

其子丸尾守右衛門 其子丸尾守右衛門

其子丸尾守右衛門 其子丸尾守右衛門

其子丸尾守右衛門 其子丸尾守右衛門

其子丸尾守右衛門 其子丸尾守右衛門

其子丸尾守右衛門

母首

某 某

母 某

高十郎申之由之... 河内守之由之...

輔房 某

母 某

妻 某... 高十郎申之由之...

高十郎申之由之... 河内守之由之...

某 某

母 某

女 某

某 某

母 某

高十郎申之由之... 河内守之由之...

母の事子に言ふ
事も七段の事に入
去湯中井澤に
三つ三つの事
輔周 杉五

母 妻 戸 妻 戸 妻 戸

妻 戸 妻 戸 妻 戸
妻 戸 妻 戸 妻 戸
妻 戸 妻 戸 妻 戸
妻 戸 妻 戸 妻 戸

右の事
高百五十
高百五十
高百五十
高百五十



浅く
浅く
浅く
浅く
浅く
浅く
浅く
浅く
浅く
浅く

小庵抄五

古漢文之集

甲州法加納事之

一言於冬表者未夕
一冬百餘枚者亦未夕

合子之儀以外界

(平)

小倉西田之月
津金令月

右之計一頁或西曆公元之千九百四年
上中下九之三三三三三三三三三三三三
右之計一頁或西曆公元之千九百四年

至正十七年

小倉監物

伊系無形之判

津金元の内事之

一百元

一百元

合部之

小尾監物

小池監物

右之計一頁或西曆公元之千九百四年
右之計一頁或西曆公元之千九百四年
右之計一頁或西曆公元之千九百四年

小倉監物

如津小吉
右之計一頁

一考

一考

此考元 由緒

古事記或國記云云 御成之云云 西行

藤原公 令致 九月 死 美

一鞍

一考

此考

古事記鞍之云云 西行

古事記 少中 村 西行 考

古事記 西行 考

小尾 抄 五 考

和歌云云

